

平成29年度世界防災フォーラム

# 『片平流防災まちづくり活動について』



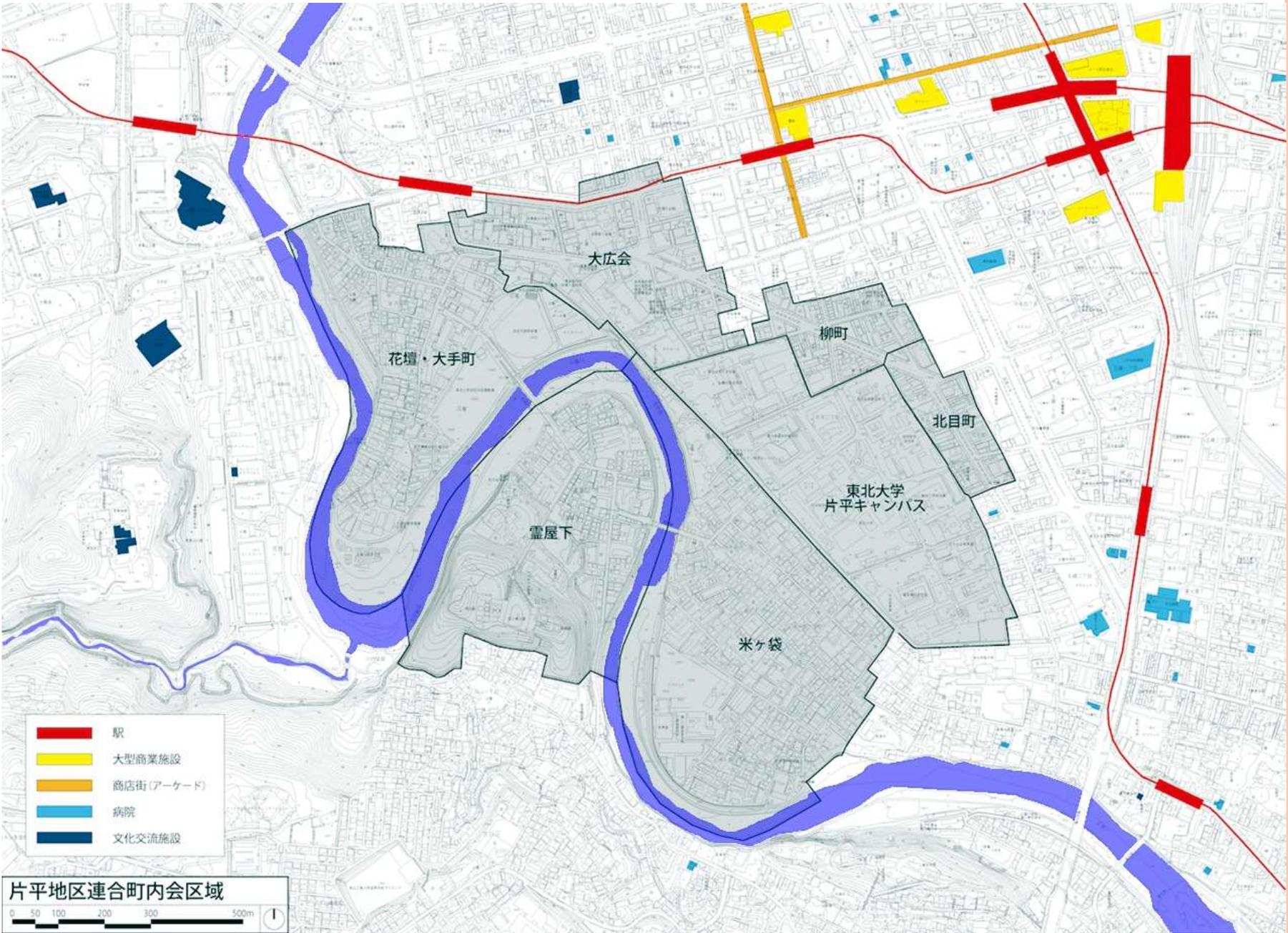
平成29年11月26日  
片平地区まちづくり会

# 目次

- I 片平地区の概要並びにまちづくり活動について
- II 東日本大震災の対応について
- III 東日本大震災後の活動について
- IV 現在の活動:片平流 防災まちづくり



# I 片平地区の概要並びにまちづくり活動について



# 片平地区まちづくり会 - 設立の経緯

- 平成19～20年度  
平成21年度
- ・片平地区平成風土記作成委員会発足
  - ・片平地区平成風土記発刊

機運の高まり

青葉区コミュニティ活性化事業の展開  
青葉区健康福祉センター家庭健康課  
片平地区をモデル地区に選定

計画策定期

- 平成22～23年度
- ・かたひら夏祭りの実施、「片平地区まちづくり準備委員会」発足
  - 【安全・安心確保分科会】  
防災、防犯・交通安全対策など  
震災対応活動、報告など
  - 【コミュニティ活性化分科会】  
各種イベントの実施、公園・広場・空地の有効利用など
  - 【歴史・環境保全分科会】

かたひらウォーキングマップ完成 (H22)

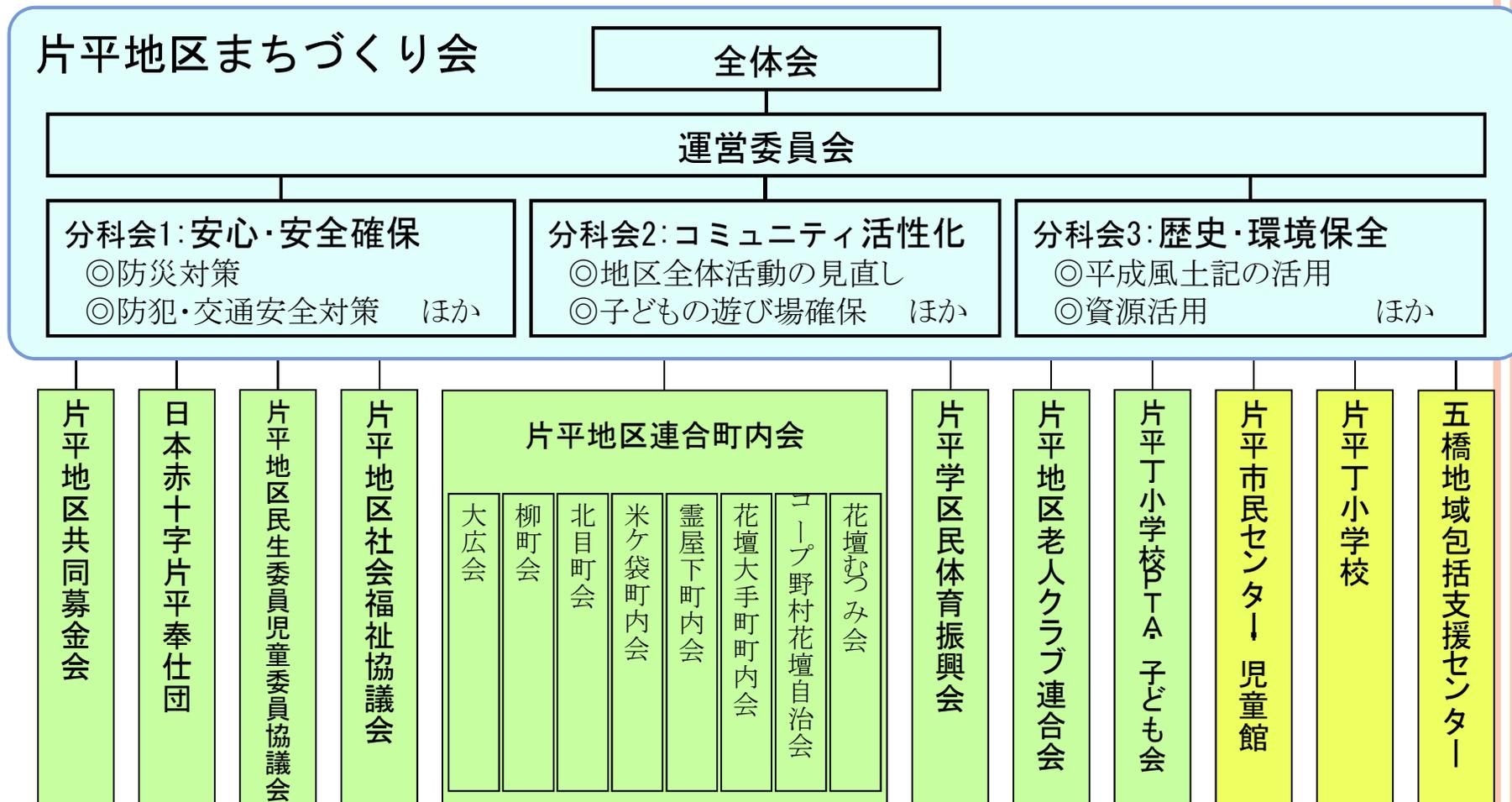
歴史・観光資源の活用など

- 平成24年度
- 「片平地区まちづくり会」として本格活動・・・計画書の編集/発行
  - ・4つの目標と6つの実践プロジェクト

実践活動期

- 平成25年度～
- 実践プロジェクト活動

■まちづくり計画策定段階(平成22年8月～平成24年9月)



## Ⅱ 東日本大震災の対応について

### 1 花壇大手町町内会の対応

- 自主防災マニュアルで始動！

- 発災10分後には役員8名集会所に集合、安否確認や被害状況の確認など、やるべきことは「自主防災マニュアル」で決まっていた。その時点ですでに電話は通じなくなっていたので、安否確認や被害確認などはトランシーバーを使用。

- 本来震度5以上の場合役員24名が集まることになっていたが、ほとんどの人は自分の家の片付に追われていた。

- 一時避難所を班毎に設定していたが、被災者は一気に指定避難所である片平丁小学校に集まってしまった。

- 自主的な避難所運営活動実施

- 町内会集会所だけでなく、大型マンション数ヶ所で自主的に避難所運営を実施してくれました。

- 炊出しの実施

- 町内会役員だけでなく、町内の食堂、商店等多くの方々の協力がありました。

- 復旧作業ボランティア活動の実施

- 地域の多くの学生(中学、高校、大学)が家屋の後片付けや廃材処理などで力を発揮してくれました。

- 災害時相互協力協定を締結している地域からの協力



## 2 片平地区の対応

### ○ 都市型避難所の戸惑い

＜片平丁小学校(指定避難所)＞	＜片平市民センター(収容避難所)＞
収容人員：体育館 350名	収容人員：300名
避難してきた住民：約1,500名	避難してきた住民：約300名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR駅舎の閉鎖、他県・市からの来仙者</li> <li>・近隣のオフィスワーカー</li> <li>・出張者</li> <li>・観光客</li> <li>・片平キャンパスの閉鎖、多くの学生(含留学生)</li> <li>・外国人居住者</li> <li>・行き場のなくなった病人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋が住めない状態なので避難所に行く</li> <li>・マンションで危険を感じるので避難所に行く</li> <li>・ライフラインが止まったので避難所に行く</li> <li>・一人であるのが怖いから避難所に行く</li> <li>・食べるものがないから避難所に行く</li> <li>・情報が欲しいから避難所に行く</li> </ul>
※避難者の約85%は地域住民以外の人たちであった	
⇒近隣の住民が避難所に行ったが入れず、町内会の集会所や県立高校などに避難した人もいた	
※備蓄は間に合わず	
⇒見直しが必要	
	・指定避難所でないため支援物資が直接届かず
	小学校を経由せざるを得なかった

- 震災当日「施設管理者」が中心となって対応した
- 翌日「片平地区災害対策委員会」を立ち上げた
- 震災対応状況を記録として残す



# 翌日「片平地区災害震災対策委員会」立上げ

・発災当日時点では、片平地区としての防災マニュアルは未整備であったが、その日の夕方、8町内会と片平丁小学校校長、片平市民センター館長に連絡、翌朝10時に集まることを決めた。

・片平丁小学校と片平市民センターの配食担当を、町内会ごとに担当する支援体制を決めた。

・震災3日目には「片平地区災害対策情報」を作成、災害対策委員会の動き、被害状況、ライフライン状況、避難所状況、炊出し状況などを1枚にまとめ、災害対策委員会の打合せにも活用した。(情報の共有化)

・片平地区全体の復旧作業ボランティア活動も実施した。



片平地区災害対策委員会組織		
―指定避難所の本格的運営―		
		2011/3/15
		片平地区まちづくり会
	委員長	今野均片平地区連合町内会会長
	副委員長	西辰三片平丁小学校校長
	副委員長	八嶋敏郎片平市民センター館長
	副委員長	穴戸充五橋包括支援センター所長
事務局	災害対策委員会事務	事務局 長 早坂忠好片平丁小学校教頭
	各地域情報把握	事務局 員 小野寺片平地区連合町内会副会長
連絡広報班	ボランティア受入	事務局 員 長門一彦墨屋下町内会防災部長
	外部情報収集・発信	班長 吉田健一 片平丁小学校PTA会長
食料・物資班	地区内広報	班員 菊池公男コープ野村花壇自治会会長
	食料物資調達受入	班長 早坂一夫大広会副会長 班員 小野紋彌花壇むつみ会会長
救護班	介護活動	班長 穴戸充五橋包括支援センター所長
	要援護者支援	班員 鶴戸満雄米ヶ袋町内会会長
	在宅被災者支援	班員 鈴木芳行/バイタルケア仙台所長
防災・交通安全対策班	地域の防犯活動	班長 佐藤孝一柳町会会長
	交通安全対策活動	班員 ( )
避難所運営委員会	委員長	避難者代表者
	副委員長	避難者代表者
	副委員長	避難者代表者
	副委員長	避難者代表者
	市職員	2名
	施設管理者	西辰三片平丁小学校校長
	避難所記録	班長 避難者代表者
	総務班(地域との連携)	
	避難所ボランティア受入	
	炊き出し	班長 避難者代表者
食料班(食料物資管理配給)		
トイレ	班長 避難者代表者	
衛生班(衛生管理)		
生活用水管理		
避難所市民センター支部(和室必要な方の避難所)	支部長	避難者代表者
	副支部長	避難者代表者
	副支部長	避難者代表者
	副支部長	避難者代表者
	施設管理者	八嶋敏郎片平市民センター館長
	避難所記録	班長 避難者代表者
	総務班(地域との連携)	
	避難所ボランティア受入	
	炊き出し	班長 避難者代表者
	食料班(食料物資管理配給)	
トイレ	班長 避難者代表者	
衛生班(衛生管理)		
生活用水管理		

★基本原則の最重要は、「被害の大小はあれ、みんな被災者であり、サービスする人・される人の固定化をさける」

# 「東日本大震災」片平地区災害対策情報(3/11～4/9)

		11日(金)	12日(土)	13日(日)	14日(月)	15日(火)
発災状況		14:46 巨大地震発生 (M:9.0、震度:7、青葉区:6強) 津波発生	余震多数発生	余震多数発生	余震多数発生	余震多数発生
災害対策委員会			10:00～10:40 「災害対策委員会(仮称)」立上 於、片平丁小校長室 参加者:片平地区連合町内会(9人) 片平丁小学校(校長) 片平市民センター(館長) 11名でスタート  1、各地区被害状況確認 2、避難所状況確認 3、今後の対策検討 ⇒10:40頃 小学校の電気が復旧したので地域に 戻って確認することし解散  14:00～15:30 第2回委員会 於、片平丁小校長室 参加者:片平地区連合町内会(8人) 片平丁小(校長、教頭、PTA会長) 市民センター(館長) 仙台市(産業振興課、国際経済・観光課)  <決定事項> 1、炊き出し支援体制決定(12日夕食から) ①学校:大広会・柳町・北目町・花壇・大手町 ②市民センター:米ヶ袋・霊屋下 <行政への依頼事項> 1、ライフライン復旧の見通しを判る範囲で連絡 して欲しい	10:00～11:15 第3回委員会 於、片平丁小校長室 参加者:片平地区連合町内会(7人) 片平丁小(校長、教頭、PTA会長) 市民センター(館長) 仙台市(2人) 13人  <決定事項> 1、仙台市の小学校:14日(月)～18日(金) 臨時休校決定 2、避難所体制を見直した ①正式避難所:片平丁小学校体育館 ②和室を必要とする人:市民センター和室 3、今後暫らくの間、委員会を毎日定期的に 開催する(10:00から1時間位、校長室で) <行政への依頼事項> 1、がれきの処理方法(回収場所・手段など)を 明確にして欲しい 2、交通混雑解消手段⇒警察署と協議し看板を 効果ある場所に設置して欲しい (鹿落坂、片平丁)	10:00～11:30 第4回委員会 於、片平丁小校長室 参加者:片平地区連合町内会(10人) 片平丁小(校長、教頭) 市民センター(館長) 仙台市(2人) 15人  <決定事項> 1、「災害対策委員会」を正式に発足させる ことを決定⇒案作成担当:今野 2、避難所体制を再度見直した (1)各地区の一時避難所は閉鎖し小学校 と市民センターに集約する (2)左記体制に追加して ③介護を必要とする人:バイタルケア仙台 (5人まで収容可) 3、避難所にいる人の名簿を作成する (担当:学校、市民センター) 4、名簿整理後地域毎の相談会を開催する (問題点を把握し対応する) 5、家庭ごみ定期回収のめど立たず、指示 あるまで出さないよう地域内に徹底すること <行政への依頼事項> 1、食糧供給見通しを明確にして欲しい 2、ボランティアセンター開設・手続き等の 情報を明確にして欲しい 3、原発の事故情報が風聞として流れてい るが、問題として認識し対応して欲しい	10:00～11:30 第5回委員会 於、片平丁小校長室 参加者:片平地区連合町内会(9人) 片平丁小(校長、PTA会長) 市民センター(館長) 都市デザインワークス(1人) 仙台市(2人) 15人  <決定事項> 1、「災害対策委員会」を正式に発足 2、名簿にもとづき避難者を地域別 に分かれてもらい、町内会単位で 相談できる体制とする 3、避難者が少なくなってきたので 避難場所を市民センターに集約する ※避難所機能を市民センターに移す こと並びに食料・物資の送り先変更を 市の災害対策本部と調整する (担当:西校長) 4、地域毎の相談会統一説明資料を作成する (資料作成担当:連絡広報班) 5、避難所に食事にだけ来る人に対し 自書を促すチラシを貼りだすこととした (チラシ作成担当:連絡広報班)
人的被害			1、片平学区全域で、人身事故は0			1、花壇・大手町地区怪我人:1人 (買物帰りの主婦転んで怪我:入院)
物的被害	家屋関係		1、片平学区全域で、火災事故は0 <花壇・大手町地区> 1、倒壊は40軒だが、住めない状況の家屋:5軒、 かわら屋根の被害家屋:5軒、 外壁ひび割れなど小被害家屋:多数 ※他地区を含め本格的調査必要			
	交通規制		1、鹿落坂自動車通行止め(歩行者はOK) ⇒鹿落旅館倒壊のため 2、片平丁鹿ノ子清水通前通行止め⇒煙突倒壊のため	1、鹿落坂全面通行止め		
	青葉山・ 広瀬川関係		1、青葉山崖崩れ2カ所確認 2、広瀬川沿いの崖崩れ3カ所確認(経ヶ峯と花壇地区憩いの家付近) 3、広瀬川沿いの石垣崩れ1カ所確認 4、大橋・評定河原橋電燈各1個倒壊	1、青葉山崖崩れさらに4カ所確認		
	その他		1、道路ひび割れ:多数			
ライフライン	水道	1、片平地区全域:断水せず 1、片平地区全域:停電	10:40頃 片平丁小学校復旧 11:00頃 柳町・北目町復旧 21:30頃 大広会・花壇・大手町地区復旧 23:00頃までに片平地区全域復旧			
	電気					
避難所設置・活用状況		1、片平地区全域:ストップ 17:10 3人の一時避難要請あり 17:15 青葉消防署片平出張所へ交渉 1、片平小体育館:すでに1,000人近く収容 (1日目として約1,500人収容) 2、片平市民センター:受入未⇒消防署、片平丁小 より要請、受け入れ開始 (1日目として約300人収容) 3、18:00 大手町親和会集会所を避難所として 開設⇒地域内8人を受け入れた	1、片平小体育館+教室 (2日目として約600人収容) 2、片平市民センター (2日目として約200人収容)	1、片平小体育館+教室 (3日目として約600人収容) 2、片平市民センター (3日目として約60人収容)	1、片平小体育館+教室 (4日目として172人収容) 2、片平市民センター (4日目として35人収容) 13:00 大手町親和会集会所を閉鎖 片平丁小学校・市民センターに集約する	1、片平小体育館+教室 (5日目として125人収容) 2、片平市民センター (5日目として30人収容)
炊き出し	片平丁小学校	夕食:学校職員で対応	朝食:学校職員で対応 昼食:学校職員で対応 夕食:学校職員と地域代表で対応	朝食:学校職員と地域代表で対応 昼食:学校職員で対応 夕食:学校職員と地域代表で対応	朝食:学校職員と地域代表で対応 昼食:学校職員で対応 夕食:学校職員と地域代表で対応	朝食:学校職員と地域代表で対応 昼食:学校職員で対応 夕食:学校職員と地域代表で対応
	片平市民センター	夕食:市民センター職員と米ヶ袋町内会有志で 対応	朝食:市民センター職員と米ヶ袋町内会有志で対応 昼食:市民センター職員と米ヶ袋町内会有志で対応 夕食:市民センター職員と地域代表で対応	朝食:市民センター職員と地域代表で対応 昼食:市民センター職員と地域代表で対応 夕食:市民センター職員と地域代表で対応	朝食:市民センター職員と地域代表で対応 昼食:市民センター職員と地域代表で対応 夕食:市民センター職員と地域代表で対応	朝食:市民センター職員と地域代表で対応 昼食:市民センター職員と地域代表で対応 夕食:市民センター職員と地域代表で対応
	その他地域	花壇・大手町:集会所とフレール花壇に保存食提供 霊屋下:パリンカの協力で希望者に提供	花壇・大手町:かつとんやと森の誓の協力で実施 (約350人へ供給した) 霊屋下:パリンカの協力で実施	花壇・大手町:集会所とフレール花壇に 昨夜の残り+αを提供	花壇・大手町:集会所に朝食・昼食分の ごはん提供	朝日町炊き出し(おにぎり750個、他) ⇒民生委員に在宅被災者に配食依頼

# 取組事例-1 震災対応状況を記録として残す

・東日本大震災における片平地区の各町内会の対応や避難所運営などについて問題点や課題などを明らかにし、今後のまちづくり活動に活用する。

・『片平地区東日本大震災における避難状況等の調査報告書』としてまとめ仙台市へ報告した。

2011.9.21 朝刊

## — 仙台・片平地区 —

# 町内会独自に震災対応検証

仙台市青葉区片平地区の町内会などでつくる「まちづくり会」と市内のNPO法人「都市デザインワークス」は20日、東日本大震災発生当時の町内会の対応や避難所運営について、独自に検証した報告書を市に提出した。市は今後、地域防災計画の見直しなどに反映させる意向だ。報告によると、まちづくり会長や指定避難所の片平丁小の校長、片平市民センター館長らで災害対策委員会を設置。校長室で連日午前10時から被災者対応を協議し、情報の共有を図った。避難所運営や炊き出し、安否確認などを担った。

都市デザインワークスが、町内会長や民生委員らに当時の活動内容を聞き取った結果、①各世帯での備蓄など「自助」の徹底②要援護者の名簿作成③帰宅困難者や外国人留学生への対応

**対策委設置し情報共有  
役割分担など課題残す**

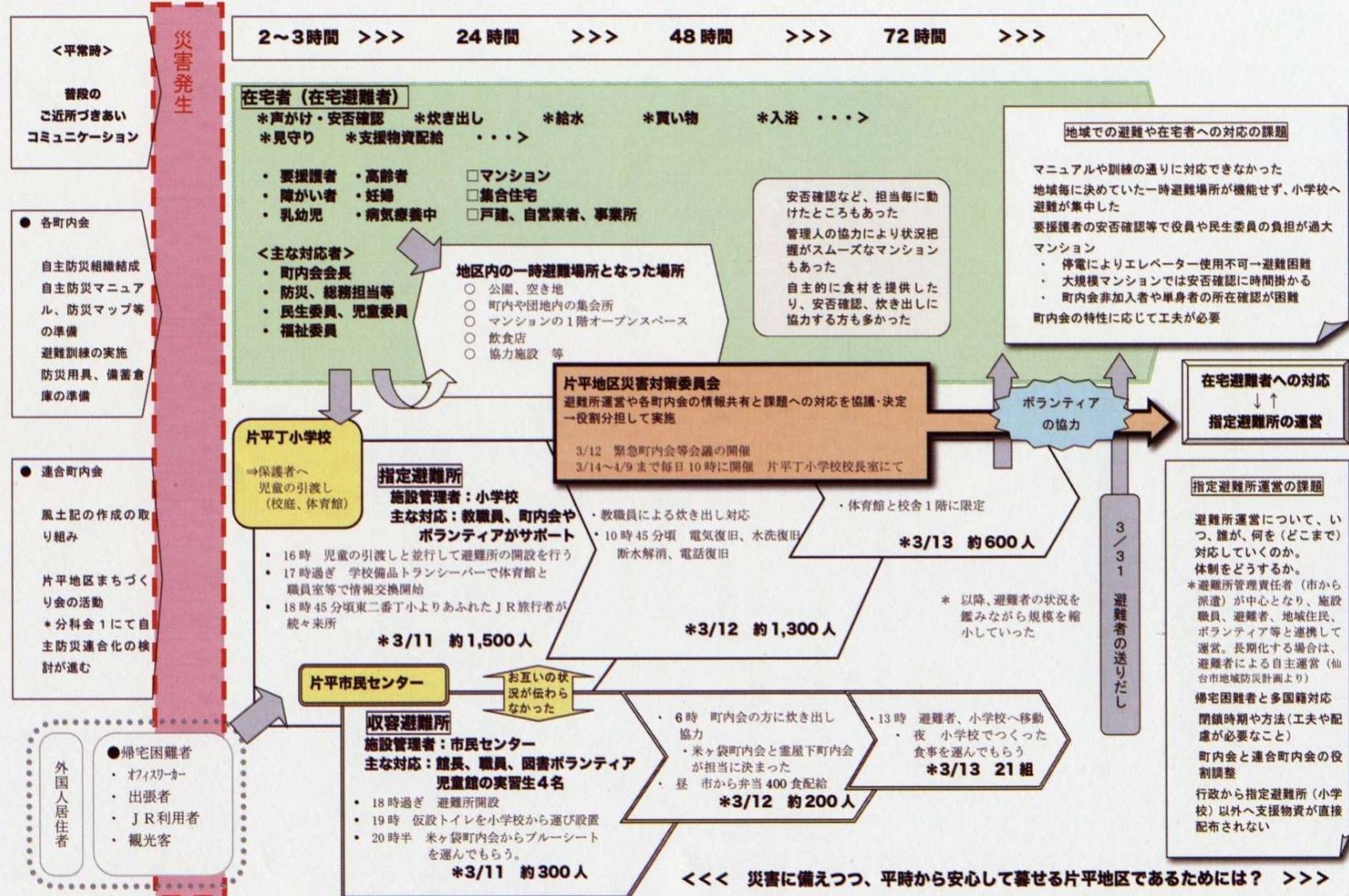
結果受けマニュアル作成へ

「などの課題が浮上した。まちづくり会委員長の今野均連合町内会長は「行政との役割分担がうまくいかず、役員や民生委員の負担が重くなりすぎた反省もある。検証を踏まえ、半年ほどかけて自主防災マニュアルをまとめたい」と話した。まちづくり会は、片平地区連合町内会や社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会などが集まり、昨年8月に発足。都市デザインワークスの支援を受け、地域資源を生かした観光まちづくり計画の策定を進めている。

# 東日本大震災における避難状況等の調査報告書のまとめ(概要)

■ 片平地区 東日本大震災における避難状況等の調査 成果概要

片平地区まちづくり会 + 特定非営利活動法人都市デザインワークス



## 片平地区まちづくり会 災害時における今後の対応方針

1. 住民は、まず自分や家族の身を守り、ご近所と助け合う。
  - ・ 各世帯では、非常食や飲料水、懐中電灯などの防災用品を準備し、家具等転倒防止対策を行う。
2. 町内会は、あらかじめ地区内に一時避難場所を設定する。災害の状況に応じて、住民は、近くの一時避難場所に集合する。
  - ・ 集まった人たちが協力し合い、安否確認報告、救出等の活動を行う。
  - ・ 状況や指示に応じて、指定避難所へ避難するか、帰宅する。
  - ・ 一時避難場所は、集会所、公園・広場を活用するほか、マンションロビー、お店、事業所などに、あらかじめ協力を求める。
3. 町内会は、住民と協力して、安否確認と在宅避難者の支援を行う。
  - ・ 特に、要援護者の支援については、名簿作成や支援内容などについて協議する場（片平地区連合町内会、片平地区社会福祉協議会、片平地区民生委員児童委員協議会が参加する「分科会1：安心・安全部会」の小委員会）を早急につくる。
4. 指定避難所等（小学校、市民センター）は、行政・施設職員と避難している人が中心に運営し、片平地区まちづくり会はそれをサポートする。
5. 片平地区まちづくり会委員長は、災害の状況に応じて、片平地区災害対策委員会を開設する。
  - ・ 災害対策委員会では、各町内会や避難所などの状況等を共有し、その対策方針を協議・決定する。
6. 連合町内会は、町内会未加入マンション等への町内会加入を働きかける。
7. 下記について、仙台市および関係団体に対して要望する。
  - ・ 仙台市に対して、各種情報の共有化と地域防災活動等への支援を要望する。
  - ・ 仙台市に対して、市民センターへの支援物資の配布を要望する。
  - ・ 仙台市および東北大学に対して、避難する外国人の支援体制の充実を要望する。
  - ・ 仙台市およびJ R・民間事業所等に対して、帰宅困難者の対応改善を要望する。
  - ・ 仙台市および観光施設に対して、観光客の避難誘導など地域と連携した対応改善を要望する。

【第2回全体会（平成23年9月4日）にて承認】



# Ⅲ 東日本大震災後の活動について

## 地域防災体制の強化プロジェクト

取り組み課題	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
一時避難所の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・25/2:見直し設定完了</li> </ul>				
合同防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月23日:第1回外国人住民も含めた合同防災訓練(於、片平丁小学校)⇒避難所運営ゲーム(HUG)、簡易トイレの組立、炊出し訓練、他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月12日:青葉区総合防災訓練(於、片平丁小学校)⇒避難所設置・運営実体験訓練</li> <li>・10月12日:第2回外国人市民も含めた合同防災訓練(於、片平市民センター)⇒仙台発そなえゲーム、炊出し訓練、他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月28日&amp;10月18日:片平地区避難所運営マニュアルの実践訓練</li> <li>・11月2日:防火防災訓練実施⇒第3回外国人市民・学生も含めた訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月1日:片平地区総合防災訓練実施⇒第4回外国人市民・学生も含めた訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月30日:片平地区合同防災訓練実施⇒第5回外国人市民・学生も含めた訓練</li> </ul>
マンション防災研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月20日:防災研修会実施</li> <li>・マンション自主防災体制づくりを取組中(モデルマンション)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション自主防災体制づくり、継続取り組み中(モデルマンション)</li> <li>・11月4日:パネルディスカッション「地域とマンションの共生を考える」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月:モデルマンションの自主防災マニュアル完成</li> <li>・10月31日:M管理組合連合会との懇談会</li> <li>・3月1日:マンション防災研修会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月30日:マンション管理支援ネットワークせんだい・みやぎとの懇談会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月26日:マンション管理支援ネットワークせんだい・みやぎとの懇談会</li> </ul>
「ウェルカム片平」の作成・展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月:「ウェルカム片平編集委員会」発足</li> <li>・25/3月:「ウェルカム片平」完成(2,000部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5～6月:各町内会へ</li> <li>・5月10日:片平丁小へ寄贈(420部)</li> <li>・7月14日:みなし仮設住宅住民対象に贈呈&amp;交流会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月末:新規建設マンション住民に配布(70部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月6日:第1復興公営住宅入居者との懇談会で配布(34部)</li> <li>・12月13日:第2復興公営住宅入居者との懇談会で配布(88部)</li> </ul>	
災害に強いまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月13日:片平地区震災防災シンポジウム</li> <li>・2月15日:「片平地区災害に強いまちづくり検討委員会」発足(28団体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月20日:下水道講座「震災復興中の現場で下水道を知ろう！」</li> <li>・3月末:「片平地区避難所運営マニュアル」の原案作成完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月18日:多文化防災ワークショップ研究会に参加</li> <li>・3月末:「片平地区避難所運営マニュアル」見直し完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月9日:H27年度片平地区災害に強いまちづくり取組計画策定(取組事例-1参照)</li> <li>・3月6日:防災シンポジウム開催</li> <li>・防災行動マップ(避難者用)作成⇒全戸配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月2日:H28年度片平地区災害に強いまちづくり取組計画策定(取組事例-5参照)</li> <li>・10月26日:「地区防災計画」モデル事業キックオフ</li> <li>・3月5日:宝探し活用テストプラン開催</li> </ul>

## 取組事例-2 外国人居住者(含む留学生)対応

### <震災発生時避難所運営の課題>

- ・同一国籍での“村集団”が形成されてしまう
- ・文化や習慣の違いで対応に戸惑いを感じた時期があった
- ・若者(留学生)を避難所生活中ズートお客さん扱いしてしまった

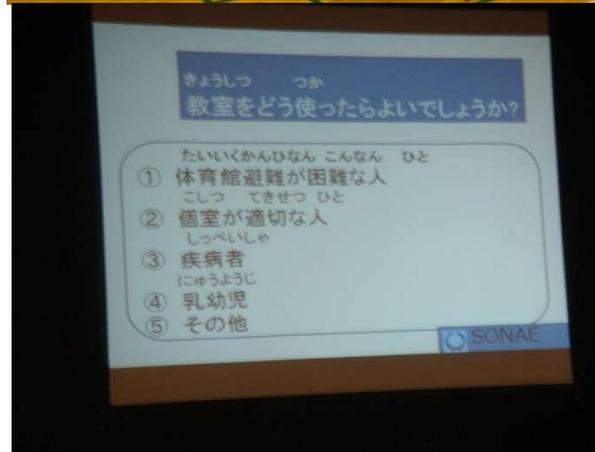


### <対応策>

- ・防災訓練で企画段階から参画してもらう取組展開中
- ・四季イベントへの参加など日頃から顔見知りになる取組展開中
- ・3ヶ国語のゴミ出しルール掲示により日常生活での交流展開中

# 第1回外国人住民も含めた合同防災訓練 (2012.11.23)

避難所運営ゲーム(HUG)、簡易トイレ組立訓練、炊出し訓練、他



## 取組事例-3 新住民への対応

新しい住民には「ウェルカム片平」の気持ちで

- ◎地域への理解を深めてもらうため、新しい住民を積極的に受け入れる体制づくり
- ◎マンション入居者など新しい住民の方向けに、片平地域の歴史や日常便利マップなどを掲載した冊子「ウェルカム片平」を作成
- ◎復興公営住宅の建設  
被災者だけではなく、みんな  
でコミュニティをつくっていく



## ワークショップ

### 4回に渡って開催された「考える会」

第1回 平成25年10月22日

「今後の考える会、復興公営住宅、霊屋地区の現状や将来」についての不安・疑問・要望を話しあおう!

参加者: 町内会役員7名、片平まちづくり会1名、寿会2名、子ども会2名、の計12名。

第2回 平成25年11月24日

「復興公営住宅」について  
正確な情報を得よう!

参加者: 町内会役員8名、子ども会3名、寿会3名、片平まちづくり会2名、近隣住民3名、青葉区役所3名の計22名。

第3回 平成25年12月8日

「復興公営住宅入居希望者」の不安や要望をきいてみよう!

参加者: 町内会役員14名、子ども会3名、片平まちづくり会1名の計18名。  
ゲスト: 仮設住宅自治会長

第4回 平成26年1月22日

復興公営住宅入居開始までのスケジュールを考えよう!

参加者: 町内会役員8名、片平まちづくり会1名、青葉区役所3名の計12名。

### ワークショップって?

「復興公営住宅とまちづくりを考える会」は、平成25年10月から平成26年1月まで月に1度4回に渡り、開催されました。進行は霊屋下町内会との検討の結果により、「住民主体のまちづくり」を研究している東北工業大学小杉研究室によって企画・運営されました。

また、「考える会」はワークショップと呼ばれる、全国のまちづくりの現場で用いられる方法で進められました。これは、誰かの話を聞いて質問したい人だけが質問する、持論を述べたい人が話をするような勉強会や会議ではなく、参加者全員が意見や考えを述べ、できる限り新しいアイデアを出し合うことができる方法です。



霊屋復興公営住宅 (NTT社宅跡地)

88戸

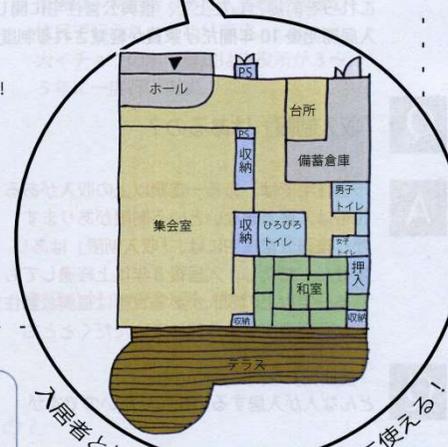
平成26年  
7~8月  
工事開始  
平成27年4月  
入居開始予定!



西側に開けた空間…誰でも利用できる!

設備…スロープ、遊具2~3個、見守りベンチ2~3個設置予定

大イチョウさん…広場のシンボル。みんなを見守る



### 想いが伝わりました!

霊屋復興公営住宅は、霊屋のみなさんと仙台市による協議を経て現在の案になりました。当初は、住戸数確保のため6階建ての設計案で、建物の配置、集会所の位置などが問題となりましたが住民のみなさんのまちへの想いが伝わり、これまでに例を見ない地元のみなさんの要望を最大限に反映した高さを抑えた復興公営住宅となりました。

入居者と地元のみなさんがいっしょに使える!

# 取組事例-4 防災行動マップ(避難者用)

## 片平地区 防災行動マップ

いざという時のために普段からできること、発災後の行動をフローチャートでまとめました。

指定避難所	片平小学校	☎022-223-3846	世帯主氏名		緊急連絡先	
補助避難所	片平市民センター	☎022-227-5333	家族氏名①		緊急連絡先	
	大町交番(花塚・大町前・大広会・番町下)	☎022-223-2744	家族氏名②		緊急連絡先	
	東二番丁交番(大広会・番町)	☎022-225-0235	家族氏名③		緊急連絡先	
	五橋交番(北目町・米ヶ袋)	☎022-221-7019	家族氏名④		緊急連絡先	

### 平常時

#### 食料備蓄の習慣化

普段の食料を多めに買い、常に食料を備蓄する。

#### 落下物注意

ブロック塀や瓦屋根の落下・倒壊を確認する。

#### 自宅避難所の確保

落下物・背の高い家具がない場所を設ける。

#### 連絡方法の共有

非常時の連絡方法、避難場所を共有する。

#### 避難経路の確認

避難場所までの経路を想定しておく。

#### 非常用品の準備

非常用品を持ち出しやすい場所に保管する。

### 発災時

#### 地震

##### 情報入手

気象庁  
・テレビ  
・公共施設アナウンス

仙台市  
・テレビ  
・公共施設アナウンス  
・広報車  
・緊急連絡メール  
・社の都防災Web  
・社の都防災メール  
・危機管理室Twitter

#### 安全確保

##### 出口確保

ドアや玄関など出口を確保し、戸外に飛び出さない。

##### ケガを防ぐ

ガラスなどの破片対策として、靴やスリッパを履く。

##### 出火を防ぐ

電気スイッチ、ブレーカー、ガス元栓を閉める。

##### 状況を周知する

安全を確保できたら玄関先に「白いハンカチ」を、合図のため掲げる。

#### 一時避難

##### いつとき避難場所

避難者サポートなど、町内会の指示に従い行動する。

##### 自宅待機

自宅待機し、近所の方の安否を確認する。

#### 避難

##### 指定避難所

がんばる避難施設

長期の避難生活に備え、町内会の指示に従い行動する。

### 風水害

発行日/片平地区災害に強いまちづくり委員会 発行日/平成27年11月1日 ※平成27年度高層地区まちづくり活動助成事業  
（事業費の一部が助成金、基本金はご自身の負担となります。）  
 ※おなじみ避難所は、状況により変更される可能性があります。

町内会で定める避難場所や、指定避難所のほか、町内会の集会所、公民館等や公民館電話、ガソリンスタンドなど、緊急時のために普段から意識しておきたい場所を紹介しています。

#### 各世帯へのマップ

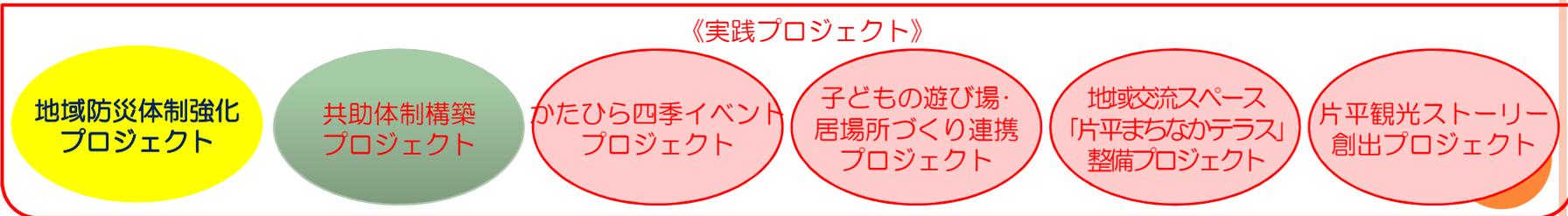
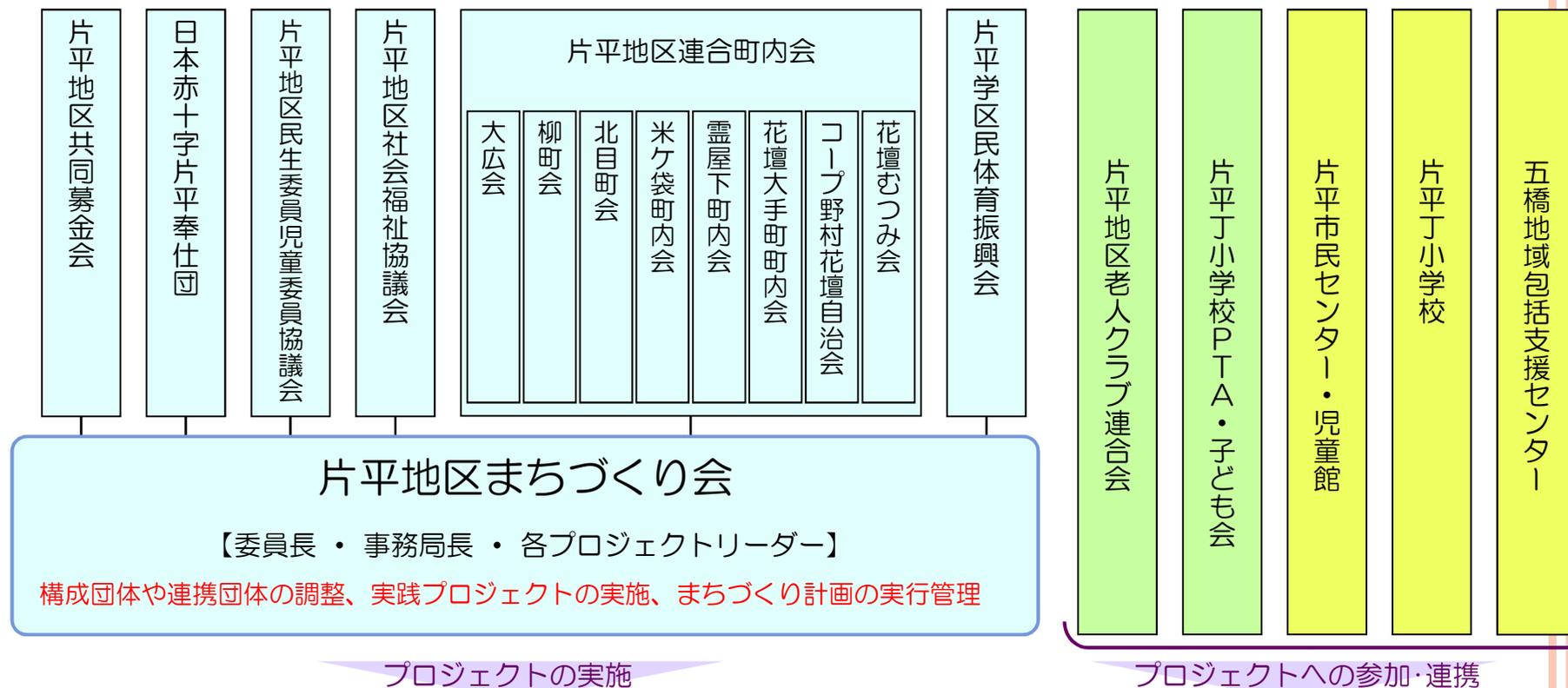
最近に広範囲がある片平地区は、水辺や河川周辺の急激な水位上昇が懸念され、むしとがでる一方、水害や土砂災害に正しく備えておく必要があります。ここでは、地域の災害リスクを知るためのマップを紹介します。  
（詳細は、下記のQRコードからホームページに接続してご確認ください）

- ◆川川氾濫による洪水ハザードマップ◆  
 氾濫の危険性が高い場所の浸水想定区域、200年の土地利用計画に合わせたシミュレーションも掲載。
- ◆内水ハザードマップ◆  
 過去50年間にわたる最大規模の降雨（平成17年）の大雨降った際の浸水想定区域、200年の土地利用計画に合わせたシミュレーションも掲載。
- ◆砂災害ハザードマップ◆  
 土砂の崩落が懸念される危険箇所も掲載。
- ◆避難所マップ◆  
 過去50年間にわたる最大規模の降雨（平成17年）の大雨降った際の浸水想定区域、200年の土地利用計画に合わせたシミュレーションも掲載。

※1 ☆ **いつとき避難場所**：町内で取り決める、災害発生直後の一時避難や安全確保のために集まる際の場所  
 ※2 ○ **がんばる避難施設（集会所、集合住宅）**：町内会や集会所単位で自主運営する。指定避難所が開設されない場合でも緊急避難や滞在が可能な場所  
 ※3 △ **がんばる避難施設（集合住宅）**：基本的に集合住宅に該当

# IV 現在の活動:片平流 防災まちづくり (1)

## 地域ネットワークで防災に取り組む



■まちづくり事業実践段階（平成24年10月～）

## 片平流 防災まちづくり (2)

### 組織: 災害に強いまちづくり委員会とプレ会議、事務局

事務局プレ会議  
(17回)

⇒

事務局会議  
(5回)

⇒

委員会  
(6回)



会場: まちなか農園事務所



会場: 片平丁小学校(校長室および家庭科室)



- ・委員会会長と事務局若手メンバーで構成する「プレ会議」で素案作成の後、事務局会議で検討⇒委員会で審議・決定
- ・10名の仙台市地域防災リーダー(SBL)
- ・単位町内会の幹部に加えて、若手人材の発掘、防災活動の要に

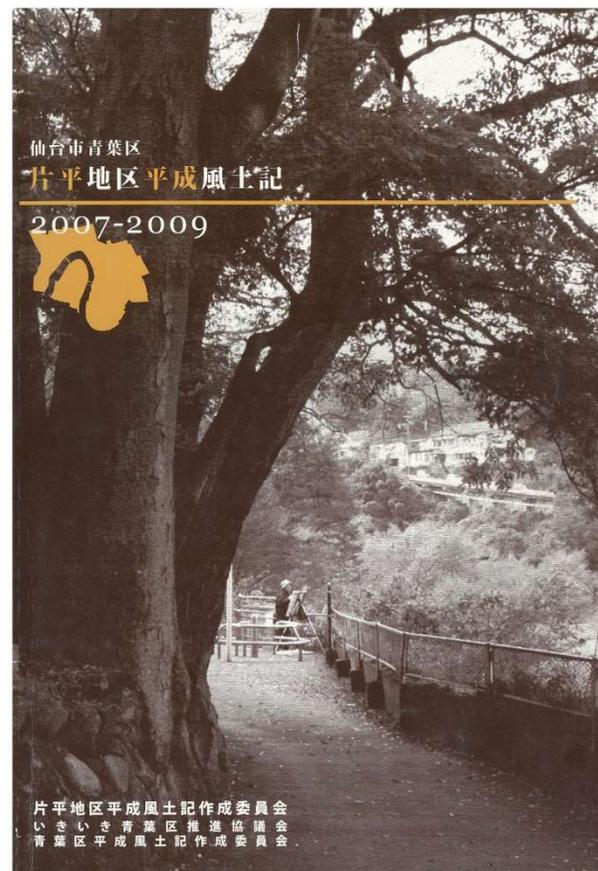
# 片平流 防災まちづくり (3)

防災活動のベースは、**地域**が集う、**地域**を知る。

## 「まちなか農園」



## 「片平地区平成風土記」



まちづくり会発足以前からの活動が、現在の活動の礎になっている

# 片平流 防災まちづくり (4)

## 次世代を育て持続可能な防災まちづくりへ

### 独自イベント“七夕ナイト”

### 「防災×宝探し」ゲーム



1. 日時 2016 (平成28) 年8月6日 (土)、7日 (日) 18:00~21:00
2. 場所 感仙殿、善応殿、妙雲界廟 周辺\*
3. 実施内容 紙バックを用い、切り込みを入れたり願い事を描いたもの\*を、境内に灯した  
\*1日目は正装アプローチ、善仙殿、善の経典に添削していたが、ライトアップされており想像以上に明るかったため、2日目はガラス製「浄土の灯り」を制作しながら、ライトによる灯りになかった妙雲界廟に設置を優先し実施。

#### 4. 背景・目的

2015年度の片平小学校での総合学習で、地区内の多世代間交流のためのキャンドルナイト実施したと当時の小学6年生から提案があった。中学生になり片平子供まちづくり隊（以下子供隊）を組織し具体的にに向けての検討過程で、「瑞鳳殿七夕ナイト」に合わせて実施ができないかという話となった。子供隊が多世代交流が必要と考えた背景には、瑞鳳殿の目の前にある霊屋下に復興公営住宅が2棟完成したことも一つの大きな理由となっており、公営の方々へのメッセージ協力も得ながら企画を進めた。

#### 5. 制作手法

多世代交流が目的であるため、メッセージを書けるなど、大人も子どもも気軽に制作に関わることができることが必要であった。ここで岩手県平泉町では、毎年8月16日の送り火に合わせて紙バックで灯りを灯す「浄土のあかり」を実施しており、そのノウハウを参考に\*\*制作した。

\*\*準備されている半紙バックを紙バックをリサイクルし、裏面にビニールを貼ってベースの素材とする。切り込みを紙と紙の間に思い通りのデザインが作れる。紙バックから裏面が透ける。子供隊メンバーが、2010年~2015年に東北大学学生らと共に「浄土の灯り」を制作して来たことにより、平泉祭りでの会場の整備が実現した。

6. 企画 片平子供まちづくり隊 (昨年度の片平小6年生有志)、片平地区まちづくり会
7. 制作協力 霊屋第二公営住宅のみなさん ほか (キャンドル制作個数: 計65個)
8. 協力 公益財団法人瑞鳳殿、片平市民センター、平泉祭り会の会
9. 助成 宮城県地域再生支援事業補助金
10. 費用 7,906円 (内訳: グラス代102個)、ロウソク代200個)
11. 7月6日および7日 夜 (16:30~21:00) の瑞鳳殿の観覧者数  
7月6日: 1601名、7月7日: 1308名

#### 12. 瑞鳳殿職員の方々の感想

- 七夕2日目に妙雲界廟の方にキャンドルを移したところ、暗かったせいかキャンドルの灯りがきれいでも普段はあまり足を運ばない観覧者も沢山足運び見てくれ喜んでた。来年以降も続けてもらえれば嬉しい。
- 今回のイベントは子供たちにとって改めて自分達が住む地域を見つめ直すいい機会になったと思う。キャンドルの灯りに導かれ多くの観覧客が二、三代様へ足を運んでくれ賑わいがみられました。瑞鳳殿が地域に住む人達の心の拠り所になれるようイベントの充実が大切なことと思う。地域連携の形が少しでもできたことが良かった。
- 今までも二代三代様側にはライトアップをしていたので足を運んでくださるお客様は割といたが、妙雲界廟は暗闇のため、そこから入っていく方はいなかった。今回キャンドルを灯したことによって幻想的な場所となり、今までにない位、多くのお客様が足を運んでくださったことが良かった。
- 手作りならではの温った灯籠で、一つ一つ興味深く拝見していた。お客様もじっくりとご覧になっているためか、滞在時間も通常より長かったように思う。七夕ナイトのイベントとしては、内容がほぼ固定化しているため、今回のように地域の皆様にご協力を頂いたことで変化が得られたことは、非常にありがたく、今後の可能性も広がったように思う。本当にありがとうございました。



# ご清聴ありがとうございました

